

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇学習指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導における生徒評価は、高い状態を維持している。特に習熟度別授業や少人数指導への評価が高い。</li> <li>・保護者評価も同様に、例年同様高評価である。</li> <li>・少人数授業、習熟度別授業は効果があり、かつ生徒・保護者もそれを認めている。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ICT（情報通信技術）を活用した授業と、ウェブ会議システム等を利用した緊急時における授業時間の確保		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・企画委員会や学年会と、情報化推進担当による連携の緊密化		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 県立高校共通のICT活用のためのマニュアルの、全教員への周知 (2) タブレットの活用（生徒を含む）	(1) 教員向けICTの活用に関するアンケート結果の分析並びに活用 (2) 生徒対象のタブレット等ICT機器のリテラシー調査とその分析		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用に関する県教委からの通知をもれなく教員に周知・伝達し、リテラシーを高められるようにする。</li> <li>・授業におけるICTの活用を推進する。</li> </ul>	① 結果の分析 ② 教員の授業での活用状況 ③ 生徒のリテラシー観察	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○年度初めの臨時休業におけるオンライン学習支援は、ICT活用を大きく推進することになった。これまで消極的だった教員も多かったが、「やらなければ授業ができない」という状況の中で、他の教員と協力し合いながら、うまく授業に活用することができた。 ○学校再開後も、ICTを活用する教員が増え、デジタル教科書等のコンテンツの購入もあって、ICT機器による効果的な授業が生徒に提供できた。 ▲県教育委員会からの通知が散発的であったり、即座に回答を求められる照会もあるなど、学校現場の混乱や負担もあった。 ○生徒はICTを活用した授業に高評価を示している。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	今年度実現できたことをさらに推進し、生徒や保護者に高い満足感を提供できる学校づくりを行う。授業ではさらにICT機器を活用し、特にタブレットを十分に活用できるよう、体制を整えていく。タブレットの活用（特にMetaMoji）には、全教員が十分理解できているわけではない。短時間での研修で使いこなすだけの技術を身に付けるのは難しい。十分時間をかけて使いこなせるよう研修を進めたい。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・臨時休業中のオンライン授業の環境を急遽整備し、配信されたことは素晴らしい。
- ・コロナ禍がICT活用の火付け役となったが、高校はチームワークよく努力し、成果を収めた。瑞浪市の小中学校においても、令和2年度中に1人1台のタブレットを配置した。小中学校でもこれからICT活用がスタートするが、機器を使い慣れた生徒が入学すれば、今よりはるかに高校での活用がうまくいくだろう。
- ・ICTは活用すればするほど、便利なツールになる。研修を重ねてより良い授業にしていってほしい。

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の実情を踏まえ、希望に沿った具体的な進路指導を行っている</li> <li>・生徒や保護者から肯定的に評価された。</li> <li>・特に就職については、地域創生キャリアプランナー等の協力により、コロナ禍においても、例年同様の実績を残すことができた。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇将来の職業や生き方について考えさせ、社会的・職業的自立に向けて必要な知識・能力の育成を図り、主体的に活動できるよう支援する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路支援部内に進学担当、就職担当、各学年担当を置く。</li> <li>・学年担当を中心にしながら、学年会と連携を図る。</li> <li>・地域創生キャリアプランナー制度を活用する。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) キャリアタイム（進路学習・進路研修会）等によるキャリア教育の充実</li> <li>(2) 瑞高塾や小論文指導等で確かな学力や、知識・技能を身に付けさせる取組。</li> <li>(3) 模試等を活用し生徒が主体的に学習に取り組めるよう支援する取組。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒へのアンケート結果やワークシート・感想の分析</li> <li>(2) 模擬試験前後における学習・活用の状況、結果の分析</li> <li>(3) 進路実績</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止に努めながら、2年生には地元企業見学会、外部講師による進路希望別講演会や進路相談会、1年生には職業講座や大学模擬授業を実施し、職業や大学等について具体的にイメージさせることができた。</li> <li>・授業を大切にすることを前提とし、定期考査と模試ごとに目標を考えさせ、学習サイクルを繰り返すことで、進路実現に向けて生徒に主体的な学習を身に付けさせるよう支援した。また、瑞高塾（補習・個別指導）への参加を促し、意識の高揚と学力の向上を目指した。</li> <li>・就職担当者・地域創生キャリアプランナー、ハローワークの協力のもと、就職希望者に対して実情を踏まえ、きめ細やかな指導を行った。また進学希望者には、今年度からの多様な選抜方法に対応するため、個に応じた指導を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の意欲を喚起し、積極的に取り組ませることができたか。</li> <li>②学力をより向上させることができたか。</li> <li>③生徒の希望進路を実現できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B C D</li> <li>A B C D</li> <li>A B C D</li> </ul>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○概ね生徒の進路希望に沿った就職先や進学先に進ませることができた。</li> <li>○進路研修会等を通して、将来の職業や生き方について、今何をすべきかを考えさせ、行動につなげるよう支援することができた。</li> <li>▲授業を中心に据え、定期考査や模試ごとに振り返りを行いながら、学力を積み上げようとする姿勢が定着しつつある生徒が増えてきているが、高い進路目標の達成に向け、一層学力を向上させるための支援が必要である。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>キャリア教育の充実を図り、生徒への効果を検証しながら多様な取組を実施する。また、特別編成クラスの生徒に対しては、担任・学年・教科と連携を図りながら、意識を高く持たせ、学力の一層の定着を図る方法について検討を行う。</p>	
<h2>II 学校関係者評価</h2> <p>実施年月日：令和3年2月22日</p> <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望に沿った教員の指導が生徒の力になり、目標の進路に進むことができていると思う。</li> <li>・本校からも多くの教員が誕生している。地元出身者が地元の子どもを育てることは、すばらしい地域貢献だと意識づけてほしい。</li> <li>・難関大学への挑戦を目指す生徒の育成と環境づくりをしてほしい。</li> </ul>		

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校 学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導（生徒指導、教育相談、特別活動）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なモラルやマナーを身に付けさせていることには高評価を得ているが、気持ちのよい挨拶については生徒自身の評価は高い</li> <li>・生徒の悩みや相談事への対応にまだまだ課題が残る結果であった</li> <li>・部活動、生徒会活動への評価が低下傾向にある。ボランティア活動改善</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇主体的に判断し、行動しようとする態度の育成</li> <li>◇自己を生かす能力の育成</li> <li>◇家庭や地域社会、関係諸機関との連携の強化</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による校門指導や挨拶の励行、遅刻防止への働きかけ</li> <li>・SCとの連携や職員研修会を通じた不登校傾向の生徒の早期対応。各種検査や面談週間による生徒の情報収集、特別支援計画への理解</li> <li>・部顧問会議、LHRの充実、他分掌との連携</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 登校指導・学年指導・個別指導。MSL活動の充実 (2) 各種検査や面談週間等による生徒理解 (3) 部・生徒会・委員会・ボランティア活動の充実	(1) 生徒個々に応じた対応と適切な支援 (2) 自己存在感、有用感の醸成 (3) 教育相談体制の充実と生徒理解	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①全職員輪番による校門指導の実施（挨拶・身だしなみ指導、遅刻防止指導）。MSL活動など対外的なボランティアへの積極的参加。 ②クラブやi-checkおよび職員研修会による生徒理解と面談週間の実施。からかい等のいじめへの対応。 ③部活動加入率。定期的な生徒会活動。ボランティア活動の紹介、募集。	① 共通理解・共通行動 社会的規範意識の育成 ② 教育相談と生徒への共感的理解 ③ 活動状況	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	<p>○コロナ禍で校門指導の教員を検温・健康チェックに充て、例年以上の教員が朝一番で生徒と接することができたことは、結果的に生徒理解につながった。</p> <p>▲いじめに関する学校評価は生徒からの評価は高いが、保護者からの評価は生徒に比べ低い。その趣旨がよく認知されているかどうかについては疑問が残る。来年度はさらに周知に力を入れる必要がある。</p> <p>○諸検査の結果を有効に活用するため研修会を開き、職員の理解を深めることができた。専門医巡回相談（SC）では保護者の来室もあり、生徒支援以外にも保護者や教員の精神的ケアや対処法の理解に有効であった。</p> <p>○コロナの影響で校外での活動はできる限り控える中で、挨拶運動やMSリーダーズの交通安全運動は積極的に活動できていた。</p> <p>▲働き方改革の推進により駅での指導、バス乗車指導が十分にできず、目が届かなくなる心配があったが、身だしなみに乱れがでないかが心配である。</p> <p>▲部活動参加状況が例年並みに低調なため、新たな取組が必要である。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで「わからない」との回答が多い項目に対して、その理由を検討し、場合によっては質問内容をより具体的な表記に改めて実施したい。</li> <li>・コロナ禍で十分に活動ができなかった部活動や生徒会活動、ボランティア活動などは、今一度安全対策を見直しながら、より活発な活動へとつなげていく。これらの活動を通じて生徒には自己決定の場を増やし、規範意識や生活規律の意識を高め、各自が自立した行動ができるように育てていきたい。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・一部の教員だけでなく、オール瑞浪高校で取り組んでいることは高く評価できる。
- ・朝の校門指導が、生徒との交流につながっている。
- ・学校が落ち着いているように感じるが、地域から信頼され、一層素晴らしい瑞浪高校となるために、「時を守り、場を清め、礼を正す」ことが具現化するような具体的な取組を期待する。

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇保健衛生・安全管理		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉配信メールサービスの活用について、生徒、保護者ともに特に高い評価を得ている。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に対して高く評価されている。</li> <li>・校内清掃に関して、昨年度より大幅に好評価を得た。</li> <li>・健康の保持増進を図り、命の尊さを考えさせるなどの安全教育について評価が下がった。</li> <li>・「地震や台風などの対応マニュアルが生徒や保護者に知らされていること」について高い評価を得ている。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇保健日よりやポスター掲示による啓発活動。 ◇学習環境を快適にするための環境美化活動。 ◇安全点検ならびに防災力の強化。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	【教員】生徒支援部会、職員朝会、職員会議 【生徒】保健委員会、環境美化委員会、防災委員会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 緊急メールの登録者増と帰宅確認訓練 (2) 防災委員、環境美化委員の活動の活性化 (3) 安全点検の徹底	(1) メール内容の理解 (2) 生徒の活動状況 (3) 生徒・職員の反応		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールでの広報活動</li> <li>・保健、環境美化、防災の啓発活動</li> <li>・命を守る訓練での啓発活動</li> </ul>	①メール内容の理解 ②生徒の活動状況 ③生徒・職員の反応	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	○メール登録の段階から、きめ細かく連絡をいれることができた。 ○特に新型コロナウイルス感染症対策の上で、メール配信が果たした役割は大きい。 ▲委員会活動については、コロナの影響で十分に活動しきれなかった。 ○オンラインでの命を守る訓練（防災講話）は新たな試みとして有効であった。 ○職員が一体となった検温体制で、三密をできる限り回避するとともに、業務専門職の尽力で、衛生面に配慮した手洗いや消毒のシステム（装置）をつくることできた。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅確認訓練では短時間で100%確認できるよう日頃からの意識を高めさせる。</li> <li>・メールをさらに有効利用して積極的に情報を発信する。</li> <li>・命を守る訓練の新たな在り方を模索し続ける。</li> <li>・保健・環境美化・防災委員会のさらなる活性化を図る。</li> <li>・各種防災関係のマニュアルに関しては毎年検討し、見直しを行う。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・コロナ禍で大変な一年であったと思う。 ・コロナ対応については、兄弟姉妹の関係もあるので、今後とも情報共有など、小中学校と連携は不可欠である。
--------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇渉外（広報、育友会、同窓会）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校からの情報発信については保護者の評価は高い。 ・育友会や部活動後援会等の会計の透明性について、保護者は満足している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇育友会行事への参加者を増やすための継続的な呼びかけ ◇育友会組織の改編 ◇同窓会活動の活性化 ◇保護者、地域、中学生等に対する本校の広報	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・総務部会 ・育友会本部役員会 ・瑞浪高校同窓会、瑞浪高校首都圏同窓会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 前育友会長、現育友会長との連携の緊密化 (2) 育友会組織と業務内容の見直し (3) 同窓会活動の活性化 (4) 育友会広報誌「真澄」、校誌『真澄が丘』や学校紹介パンフレットの発行	(1) 育友会役員からの意見聴取 (2) 同窓会役員からの意見聴取 (3) 保護者や生徒、職員への意見聴取	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・コロナ禍で育友会活動が縮減する中、前会長をアドバイザーとして現会長に助言いただく機会を増やした。 ・コロナ禍にあっても同窓会長、首都圏同窓会会長との連絡を密にして良好な関係を維持した。 ・本校の良さを中学生にアピールできる学校紹介動画を作成した。	①行事への参加・運営状況 ②各行事の感想や反省の共有 ③生徒の活動状況 ④生徒・職員の反応	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
11 成果・課題	総合評価	
○コロナ禍の中、育友会行事の「真澄祭バザー」を開催するかどうかについて、難しい判断を迫られたが、前会長・現会長を中心に本部役員の見解をまとめ、様々な意見がある中で中止を決断できた。 ○育友会の組織を実態に即したものに改編し、会長の負担を軽減するとともに、副会長の業務分担を明確にすることができた。 ○学校紹介動画は、中学生に対して本校の良さを十分に伝えることができた。 ▲同窓会理事会、同窓会代議員会を開催できず、創立100周年記念事業の準備を進めることができなかった。	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
12 来年度に向けての改善方策案	・育友会新会長との連携を密にし、コロナ禍における育友会活動に検討するとともに、組織が機能するように改編を進める。 ・育友会広報誌や校誌、学校紹介動画等の広報活動をさらに充実させ、本校の良さをさらにアピールする。 ・新型コロナウイルス感染症予防に配慮した上で同窓会理事会や代議員会を開催し、創立100周年記念事業の準備を進める。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

【意見・要望・評価等】
・コロナ対応も含め、一斉メール配信等、きめ細かい連絡が行われている。 ・学校行事等のオンライン配信はよかった。

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生活福祉科の取組	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性を生かした学びや取組について、意欲的に取り組むことのできる生徒が大半を占めている。しかし、それが進路決定と結びついていく生徒は必ずしも多くない。</li> <li>・普通科と比べると、生活福祉科の生徒は肯定的な回答が若干低い。その背景には、自己肯定感の低さがあると思われる。様々な体験や学習を通して自分に自信が持てるようにしたい。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目の確かな知識や技術を習得し、進路実現に向けて意欲的に取り組む姿勢を身に付けさせる。</li> <li>・地域社会との交流活動を通して自ら行動することを学び、自己肯定感を向上させる。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒を主体とした情報交換をこまめに行い、教員間の協力及び連携体制を整える。</li> <li>・外部講師や地域との関係を築き、専門的な学習の深化に繋げる。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域の社会資源との連携</li> <li>(2) 外部講師を招き、各コースの専門性に合わせた講習会などを実施する。</li> <li>(3) 教科会において「報連相」を確実にを行い、支援が必要な生徒を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地元産業や団体との連携。</li> <li>(2) 講習会後の生徒の反応及び感想・評価。</li> <li>(3) 支援が必要な生徒の学習の様子を継続的に観察し、評価に繋げる。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家や地域産業に関わる人との交流や体験を通して、自発的な学びが行える環境づくり。</li> <li>・専門科目に関連する進路実現への取組。</li> <li>・支援が必要な生徒への個別援助。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒が意欲的に活動に取り組む姿勢が見られたか</li> <li>②専門科目に関連する進路実現ができたか</li> <li>③外部との連携ができたか</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○コロナ禍で様々な活動が制限される中でも、生徒は検定への取組や作品制作などの専門的な学習を意欲的に行うことができた。また、卒業制作・実践活動発表会を通して、学習の成果をアピールし、自信を持つことに繋がった。</p> <p>▲インターンシップや保育園などとの交流活動が中止となり、異世代とのコミュニケーションや企画・運営といった力を身に付ける機会を新たに設けることができなかった。</p> <p>▲キャリア教育の在り方を見直し、学びの成果を生かした進路選択及びその実現ができるような活動を取り入れていきたい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化に応じて取り組める学びや活動を検討・発掘し、専門的な学びに停滞が起らないよう学習内容を工夫することが必要である。</li> <li>・学年ごとの生徒の変化を把握し、生活福祉科として求める生徒像を示し、継続的な指導を行っていききたい。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な制限がある中でも、専門的な学習を行っていることが素晴らしいと感じた。</li> <li>・インターンシップや交流活動がコロナによって大きく制限されたことは本当に残念であった。</li> <li>・来年度も同じような状況が続いたとき、「withコロナ」における新たな方式や様式による交流を、ICT等を活用して実施する可能性を探ってほしい。</li> <li>・「これだけは負けない」というものを一つ身に付けさせてほしい。習得した知識・技術を人に教えることができるようになることや、地域の人に「瑞浪高校の生徒はすごい」と言われるようになってほしい。</li> <li>・生活福祉科の生徒が、さらに専門的に学ぶため専門学校等に進学しているが、卒業後にどのような方面に就職したか、生活福祉科で学んだことが将来どのような職業に就いたかを、追跡調査をしてはどうか。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇第1学年の取組	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直な生徒が多い。明確な進路目標を持つ生徒から、複雑な家庭環境を抱える生徒、中学校生活で苦労をした生徒まで、生徒の実態は多岐にわたる。一人一人の生徒にとって適切な進路目標設定や学習・生活支援が必要である。</li> <li>・保護者には本校の教育方針や生活指導に対して理解していただいております。本校への入学に肯定的で、学校生活に前向きな生徒が多い。</li> <li>・総合的な探究の時間の意義が十分に理解されていない。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「誠実な姿勢」を身に付けることを目標に掲げ、何事に対しても真心をもって対応できる生徒を育てる。</li> <li>①集団のルールを守り、日々の授業を大切にして基礎学力を身に付けようとする生徒を育てる。</li> <li>②適切なコミュニケーションを取ることができ、仲間意識・人権意識をもった生徒を育てることで、誰もが安心して学べる環境をつくる。</li> <li>③進級に向けての自信や希望をもたせる。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例の学年会や職員会議で生徒の情報交換を行い、共通理解のもと協力して生徒を支援する。</li> <li>・教育相談係や支援員、スクールカウンセラーとの連携により、支援の必要な生徒に対して速やかに対応できるようにする。</li> <li>・基礎学力の定着に関しては教科担任と連絡を密にし、担任や副担任からも生徒への必要な働きかけを行う。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学年集会やHRにおいて「誠実な姿勢」について具体的な行動の仕方を示す。</li> <li>(2) 定期考査ごとに学習計画表を配布して学習記録を取り、結果の振り返りをさせる。</li> <li>(3) 普通科においては探究活動を、生活福祉科においてはコース研究を充実させ、進路意識や自己理解力の向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の生活態度や身なりの様子が適正であり、人間関係が良好である。</li> <li>(2) 学習時間調査において家庭学習時間が確保されており、かつ考査成績が良好である。</li> <li>(3) 探究活動後のアンケートで、自主性やコミュニケーション能力が向上している。適切なコース選択ができています。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会を実施し、生徒の頑張りを認め、さらに目指す姿を伝えた。各行事において、クラスを中心に仲間への理解がすすんだ。</li> <li>・学習計画表における学習の振り返りを次の考査に生かした。</li> <li>・普通科の総合探究では、各自が地域と連携して探究活動を行い、代表者が卒業制作・実践活動発表会で発表を行い、自己理解やより良いコミュニケーションについて学んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①身なり指導において指摘されることがない。</li> <li>②いじめ迷惑調査において問題が出てこない。</li> <li>③1年間を通じて、学習時間や成績が向上している。</li> <li>④普通科において、自主性やコミュニケーション能力が向上している。</li> <li>⑤進路目標の概要が決定している。</li> </ul>	<p>A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年会と生徒支援部、教務部を中心に、高校における生活習慣が確立できた。</li> <li>○支援が必要な生徒については、教育相談係や支援員、教科担任と連携し、個に応じた対応を行うことができた。</li> <li>○普通科の総合探究において、生徒が自ら問題意識をもち、地域の方と積極的にかかわることができた。</li> <li>▲仲間意識・人権意識に関しては今後もさらに高めていく指導が必要である。</li> <li>▲進路目標を考えることはできるようになったが、方向性を決めかねている生徒もある。もう少し、進路情報を生徒に伝える時間が必要であった。</li> <li>▲コロナ感染症の影響で、生活福祉科の校外での進路活動が十分行えなかった。</li> <li>▲定期考査前は学習する時間が増えたが、日常の自宅学習時間がまだ少ない。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識の向上に向けて生徒支援部と連携し、素早く、一貫した対応に心がける。</li> <li>・自主学習の意識を高めるため、家庭学習の時間を確保する課題を工夫する</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生から高校生となり、一段広い視野を持つことができる時に、自ら問題意識を持ち、地域と関わりが持てる生徒を育成する取組は、大変素晴らしい。</li> <li>・評価視点の「自主性やコミュニケーション能力の向上」の評価「A」は素晴らしい。</li> </ul>

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇第2学年の取組	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は比較的素直で、理解したことは真面目に取り組むことができるが、初めてのことに消極的で行動できない。</li> <li>・総合的な探究の時間の意義が保護者に伝わっていない。</li> <li>・ボランティア活動などに対して十分でないという意見がある。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自らの進路や部活に対する具体的な目標をたて、率先して努力する姿勢と表現する力を育む。そのための活動を総合的な探究の時間の中に組み入れ、校外活動を通して実践する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間に関わる学年会、進路支援部との連携</li> <li>・生徒会、部活動に関わる学年会と生徒支援部（生徒会、部活動担当）との連携</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 総合的な探究の時間の推進（沖縄研究、地域連携プロジェクト、資格取得の学習など）</li> <li>(2) 部活動でのボランティア活動の推進</li> <li>(3) 他学年や他分掌との情報共有ならびに評価</li> <li>(4) 通信、学年懇談会、すぐメール等の活用</li> <li>(5) 瑞浪市地域連携事業推進交付金の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 発表活動の際の生徒間評価</li> <li>(2) 事前事後の自己アンケートやパートナーの評価</li> <li>(3) 資格取得の状況</li> <li>(4) 卒業制作・実践活動発表会等での教員評価</li> <li>(5) 保護者の学校評価</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 総合探究活動では、グループによる沖縄研究をレポートとしてまとめた。また普通科の地域連携プロジェクトでは、8つのプログラムに分かれ、前半はオンラインミーティングで、後半は対面での具体的活動を行った。</li> <li>(2) 10月に学年懇談会を実施し、保護者に対して直接進路情報、学校運営状況などについて情報提供を行った。</li> <li>(3) 多くの部活動がMSリーダーズ活動の取組（主に挨拶運動）に参加した。</li> <li>(4) webアンケートを用いて、生徒や教員の意見を集約し、共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒一人ひとりの自己目標に向け、自主的に活動できた。</li> <li>②生徒一人ひとりが活動で得たことを、自分のこととして学校内や保護者、地域の方に発信することができた。</li> <li>③学年懇談会や三者懇談会で学校の指導の方向性について理解してもらうことができた。</li> <li>④校務分掌や教員間で情報を共有することができた。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○小人数グループでの活動は、沖縄研究や地域連携プログラム、部活動等、どの場面でも互いに助け合いながら進める姿が見られた。</p> <p>○地域連携プロジェクトではパートナーとの関係性がより近くなるプログラムが多く、取組が定着してきた。</p> <p>○生活福祉科では落ち着いた学習環境が定着した。</p> <p>○学年懇談会の実施により、保護者の意見や思いを聴取することができた。</p> <p>▲生徒一人一人が自分のこととして取り組むことができないため、すべての活動が進路目標になかなかつながらない。</p> <p>▲コロナ禍で地域連携プロジェクトの見通しが持てず、指導する側の連携もうまく取れなかった。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>さらに具体的な活動を計画し、生徒の経験値を高めたい。そのために、教員や関わる地域の方等の間で情報共有できる場を十分設けなければならない。また、年間の活動計画を立て、予算配分や人員配置の検討が必要である。3年次には生活福祉科は総合的な探究の時間がなくなるため、目標に向けた取組が学科ごとに実践できるよう、学年会の中で情報共有を欠かさず行いたい。</p>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・評価視点②「生徒が活動で得たことを発信する力」の評価が「C」となっている。大人になってからもこのスキルは大変重要なので、是非伸ばしてほしい。
- ・（地域連携プロジェクトについて）「なぜこの活動を行うのか」「この活動はどんな意味があるのか」という動機づけの部分を丁寧に行っていただきたい。



# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

## I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇第3学年の取組		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導、進路指導、生徒指導など学校に対して肯定的な生徒が大半を占めてはいるが、否定的な回答は昨年度より多くなった。最高学年として、学校に対する要望や自主性の成長を感じる結果だった。</li> <li>・生徒・保護者とも「すぐメール」での情報発信について肯定的な回答が見られた。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「自己実現」を目標に掲げ、自らの意思、責任において物事を進めるとともに、進路実現に向けた取り組みを支援できるよう心がけた。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会を始めとする各分掌との情報交換や連携に努める。</li> <li>・保護者との連絡を密にし、三者懇談時の意見や通信の配布等により、生徒に関する情報を共有できるように取り組む。</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各コース、個に応じた指導の充実。</li> <li>(2) 補習や小論文指導、外部模試の活用などの個別指導。</li> <li>(3) 適宜個人面談や三者懇談を行い、生徒理解に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業に臨む姿勢、学習時間の確保</li> <li>(2) 進路結果、学習時間調査の結果</li> <li>(3) 生徒の日常の様子、アンケート結果、保護者の意見の利用</li> </ul>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に取り組み、達成感を感じることができる授業の工夫。</li> <li>・補習内容の充実、学習成果を確認できる小論文指導や模試への取り組み。</li> <li>・進学希望先の説明会への参加や生徒のニーズに応える進路支援ができる体制作り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習に対する取り組みや進路意識の向上があったか。</li> <li>②生徒の意欲を喚起し、積極的に取り組ませることができたか。</li> <li>③希望進路を実現できたか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の生徒の進路実現を目指して進路支援部との連携が図れ、進路意識を高めることができた。</li> <li>○進学・就職希望者とともに、外部模試や小論文指導、補習といった個に応じた学習により、多くの生徒が希望の進路を決定することができた。</li> <li>▲進路決定後の学校生活を疎かにする生徒がおり、指導力不足を感じた。</li> <li>▲導入されたタブレットを利用した授業展開を考えていくことが必要だった。</li> </ul>		総合評価
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感や表現力、様々な活動に対する適応力など、個々の生徒の力を発揮させるためにも日々の授業展開や働きかけがより一層重要である。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・希望する進路を実現できた生徒が多かったことは、大変評価できる。
- ・普通科、生活福祉科のどちらの生徒も自分の特性を活かせる進路に進んだのではないかと思います。